

PRESS RELEASE _ 2012/06/05

New Adventures in Narratives, Ecstasies.

2012/06/16 sat. 15:30 OPEN / 16:00 START

at 京都芸術劇場 春秋座

猿がタイプするコードから宇宙が生まれる可能性 —

データを基に自動的にソートされたフレームが生み出すエモーション/カタルシス —

数学的な構造と人の感情との交差する場所 —

この度、京都造形芸術大学 美術工芸学科 現代美術／写真コースの主催、同コースにて講師を務める古館 健の企画のもと、ライブ・パフォーマンス・イベント「*New Adventures in Narratives, Ecstasies*」を開催します。

メインゲストとして、2011年のAPMTにて鮮烈なデビューを飾り、以降、恵比寿映像際や Sonar Sound Tokyo など主要なアートフェスに続けて出演、圧倒的な解像度の音響と映像で観客を魅了してきた **Typingmonkeys** を迎えます（関西初ライブ）。

共演は、HEADZ からのリリースで知られる電子即興アンサンブル SJQ と、taico club、republic などにも出演し、近年評価をぐんぐんとあげているメディアクリエータ Kezzardrix とのジョイントユニット「**SJQ++**」。高谷史郎氏の作品のシステム・プログラミングや糸魚健一 (a.k.a. PsysEx) とのユニット (plan+e、avant-gals) としての活動、また、今西玲子とのデュオにての Sonar Sound Tokyo への出演も果たした **古館 健**。映像上映として、2003年の制作ながらアルゴリズムエディティングという手法の可能性を示した作品「**ON 02**」（作：前田真二郎）。

コンピューター／アルゴリズムを創作の中に取り入れ、映像／音楽に新たな意味を見いだす4つのカッティングエッジなプロジェクトを、京都芸術劇場 春秋座のハイスペックな音響／映像環境にてご紹介します。

主催：京都造形芸術大学 美術工芸学科 現代美術／写真コース

共催：京都精華大学 芸術学部 映像コース

<http://ekran.jp/event/> event@ekran.jp

- 開催概要

日程 2012年6月16日(土) 16:00 - 18:30
※開場は開演の30分前

会場 京都芸術劇場 春秋座
〒606-8271 京都市左京区北白川瓜生山2-116
京都造形芸術大学内
tel: 075-791-8240 / <http://k-pac.org/>

出演 Typingmonkeys
SJQ++ [SJQ × Kezzardrix]
古館 健
ON 02
[Video Screening / directed by 前田真二郎]

料金 一般前売 1,500円
一般当日 2,000円
瓜生山学園生 500円

前売チケット取扱

<http://ekran.jp/event/> (オンライン予約/当日窓口にて精算)

京都芸術劇場チケットセンター
075-791-8240 (平日 10:00-17:00)
京都造形芸術大学内人間館 1F

お問合せ event@ekran.jp (京都造形芸術大学 講師 古館 健)
075-791-8232 (京都造形芸術大学美術工芸学科)

主催 京都造形芸術大学 美術工芸学科 現代美術/写真コース
共催 京都精華大学 芸術学部 映像コース

- 関連企画 平川紀道 レクチャー

日程 2012年6月15日(金)
14:00 - 16:00

会場 京都精華大学
〒606-8588
京都市左京区岩倉木野町137

出演 平川紀道/古館 健

- タイトル「New Adventures in Narratives, Ecstasies」について

このタイトルの意味は、直訳すれば「物語性と快楽の新しい試み」。
なにによる「新しい試み」なのか？
それによって得られる「新しい物語性」「新しい快楽」とは何なのか？

「新しい物語性」、この言葉は、昨年のインドでの滞在制作の時に何度もファシリテーターに対して発言した言葉。その滞在制作で求められていたのは、地元のダンサーとともにビデオ・ダンスを作るということだった。実際のクリエイションに入るまでにイギリスから来たビデオ・ダンス作家によるワークショップが催されたが、僕は、そこで見せられる無理矢理に形式化された映画的なビデオ・ダンスに対して関心が持てなかった。そもそも、地元ダンサーとコラボレートできるメディアアーティスト/プログラマーという条件で参加した僕は反発心さえ抱いた。そんな中で一つのスケッチワークを作る際に、ふと思い出し引用させてもらったのが、前田真二郎氏の「ON 02」で試みられていた、フレームの輝度をアナライズし、暗いものから明るいものへフレームをソートし直す、という手法だった。

リキシャーから撮影された夜のデリーの町並み、そのワンショットをその手法で処理する。映像的な意味でのナラティブ - 映画的なナラティブ - ストーリー/シナリオ/それによって引き起こされる感情 - リキシャーに乗り、同乗のフランス人と風景について話しながら自分たちの部屋まで帰る - そういう流れは失われ（一般的な意味での人の理解できるものではなくなり）、エクストリームなワンフレーム単位のカットアップがそこに現れる。

カッコいいビジュアル、であるとか、絶妙なタイミング、であるとか、そういう本来映像的である要素は排除され、そこにあるのは、適当に撮影された素材そのままのフレームとタイムライン上に表されるグラフィ的な何か。しかし、その点滅に近い画面が3分の間に徐々に明るくなり、激しい明滅へと変わっていくその構造は、僕にカタルシスを与えるのに充分だった。

映像の「内容」ではなく、その「プロセス」によって語られる物語。

この企画で集められた「ON 02」を含む4つのプロジェクトは、最終的なアウトプットとしては映像/音響を用いるものの、その視点は、それらが生まれ得る構造へと向かっている。

—古舘 健

- 出演者プロフィール



Typingmonkeys

野口久美子と平川紀道によって 2011 年に結成。

コンピュータの計算能力を直接的に行使して、非人間的な量のオブジェクトをリアルタイムで生成、コントロールする。

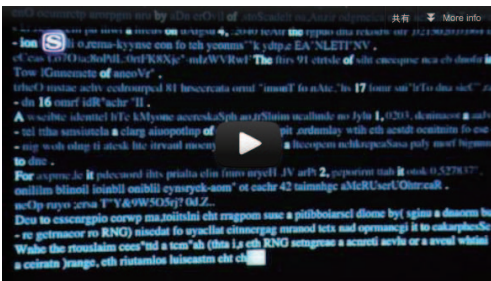
最終的な出力はまるで猿が打鍵した文章のように、しばしば無意味である。

<http://typingmonkeys.jp/>

平川紀道

1982 年生まれ。コンピュータ・プログラミングによるリアルタイム処理を用いた映像音響インスタレーションを中心とした作品群を国内外の美術展、メディア・アート・フェスティバルで発表。2004 年度文化庁メディア芸術祭優秀賞、アルス・エレクトロニカ 2008 準グランプリ他受賞多数。池田亮司のコンサート・ピース制作への参加、大友良英 + 木村友紀 + Benedict Drew とのコラボレーション、ミラノ・サローネでのレクサスのアートエキシビジョンへの参加、Typingmonkeys としてのライブ・パフォーマンスなど、活動は多岐にわたる。

<http://counteraktiv.com/>



参考作品： a circular structure for the internal observer[平川紀道] (左)、
the irreversible / 戻らぬもの [平川紀道] (右)

参考映像：Youtube: [Typingmonkeys Live at WWW](#)

SJQ++ [SJQ×Kezzardrix]

電子即興アンサンブル SJQ とメディアクリエイター Kazzardrix のジョイントプロジェクト。今年 4 月京都での反響を呼んだ共演から継続プロジェクトへ発展。その京都公演では、演奏と映像が不可分なアンサンブルとして形成された、真にインタラクティブなパフォーマンスを展開。オーディエンスから多大な賛辞を獲得した。今夏は更なるヴァージョンアップを図りながらシリーズ・ライブを予定。



参考映像：Youtube: [SJQ++\[SJQ×Kezzardrix\] at UrBANGUILD\(Kyoto\), 2012](#)

SJQ

SJQ は、魚住勇太 (ピアノ)、米子匡司 (トロンボーン)、ナカガイトイサオ (ギター)、アサダワタル (ドラム)、大谷シュウヘイ (ベース) そして人工生命によるプロジェクト。

ループを用いず、一つ一つの音と音がドミノのように連鎖反応させることで、音楽が生まれ、展開する。演奏はコンピュータなどで、生演奏をリアルタイムで音響処理を行う、ライブエレクトロニクスという手法で行われる。

<http://www.dubdb.com/sjq/>

Kezzardrix

関西在住のクリエイター。自作ソフトウェアを駆使したインタラクティブな映像と音楽、モバイルデバイスを用いたパフォーマンス等を京都、大阪を中心に行う。VJ としては、関西のクラブを中心に活動しながら、Zettai-mu Springup2011 や taico club, republic 等の大規模フェスにも出演。2012 年から、SJQ とのオーディオビジュアルユニットを新始動。様々な作家の舞台やインスタレーション、広告企業のサイネージ等におけるインタラクティブな仕掛けのサポートプログラマとしても活動。最近では MV の制作等も手がけ、一部の作品演出は TL 上で「パーティクルの鬼」と評された。自身のインタラクティブ作品は文化庁メディア芸術祭審査員特別推薦作品や学生 CG コンテスト優秀賞、ADAA 等に入選している。

<http://www.kezzardrix.net/>

<http://ekran.jp/event/> event@ekran.jp

- 出演者プロフィール



ON 02 2003 / digital / 5'00" video screening directed by 前田真二郎

2000年に発表した72分の映画"オン"は、12万以上のフレームで構成されています。そのフレームの輝度を解析し、暗いものから明るいものに並べ替え、5分の長さに圧縮したものが"ON 02"です。

前田真二郎

映像作家・情報科学芸術大学院大学 (IAMAS) 准教授。

1969年生まれ。京都精華大学大学院美術研究科修了。映像メディアを「未知を発見する道具」と捉え、コンピュータを用いた自動編集による映像作品や、規則を基にした撮影行為の連鎖から生成される映画などを制作する。代表作に「オン」(2000 / 香港国際映画祭)、「日々 "hibi" 13 full moons」(2005 / 山形国際ドキュメンタリー映画祭)がある。

2005年よりDVDレーベル"SOL CHORD"の監修を務める。

<http://maedashinjiro.jp/>



参考映像: Youtube: [日々 "hibi" AUG / 20101123 MIX at VACANT](http://www.youtube.com/watch?v=...)

古館 健

アーティスト、プログラマー。

2000年頃より、anagma名義でのライブパフォーマンス、およびvokoi氏とのユニット710.beppoとして活動。

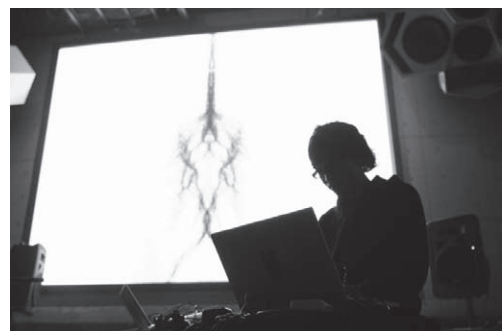
2002年よりサウンド・アート・プロジェクトThe SINE WAVE ORCHESTRA主宰。同プロジェクトにて横浜トリエンナーレをはじめ国内外の展覧会にて作品を発表。

現在は京都を拠点に、映像、サウンド、インタラクティブのプログラマーとして、自身の制作の他に、他アーティストのクリエイションに参加。

主な参加プロジェクトとして、パフォーマンスグループdots(<http://dots.jp/>)「nowhere」[2008～]、「KISS」[2009]、「カカメ」[2010～]、「LIFE - fluid, invisible, inaudible...」[2007～] (高谷史郎氏と坂本龍一氏との共作)、高谷史郎氏「La Chambre Claire」[2008～]、「CLOUD FOREST」[2010～]、椿昇氏「Radikal Aqua」[2011～]、坂本龍一氏「UTAU Tour 2010」への映像提供、また、今西玲子とのDuoやplan+e(糸魚健一 [PsysEx]らとのオーディオビジュアルユニット)としてのライブパフォーマンスなど。

2009年より京都造形芸術大学、京都精華大学にて非常勤講師をつとめる。

<http://ekran.jp/anagma/>



参考映像: Youtube: [avant-gals live 120603](http://www.youtube.com/watch?v=...)